

教育講演1 略歴

座長

近藤 国嗣 (こんどう くにつぐ)
東京湾岸リハビリテーション病院 院長

■ 略歴 ■

1988年	東海大学医学部卒業
職歴	
1988年	慶應義塾大学医学部リハビリテーション科入局 初期研修
1990年	東京都リハビリテーション病院 医員
1992年	慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター 医員
1994年	埼玉県総合リハビリテーションセンター 医員
1996年	慶應義塾大学医学部リハビリテーション科 医長
1998年	東京専売病院リハビリテーション科 部長
2000年	川崎市立川崎病院リハビリテーション科 医長
2007年～	東京湾岸リハビリテーション病院 院長
1999年	博士(医学) 学位取得(慶應義塾大学)
2001年～2021年	慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室非常勤講師
2022年～	慶應義塾大学医学部客員教授(リハビリテーション医学教室)

学会資格など

日本リハビリテーション医学会 専門医・指導医、代議員、理事
日本生活期リハビリテーション医学会 監事
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 認定士、評議員
日本臨床神経生理学会 専門医、指導医、
日本抗加齢医学会専門医
日本義肢装具学会 正会員

その他

一般社団法人 全国デイ・ケア協会 会長
一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会 副会長
一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会 理事
一般社団法人 内科系学会社会保険連合 リハビリテーション関連委員会委員長
一般社団法人 日本災害リハビリテーション支援協会 (JRAT) 副代表
公益社団法人 全国老人保健施設協会 常務理事
リンパ浮腫研修会 運営委員

演者

久保 俊一（くぼ としかず）

日本リハビリテーション医学教育推進機構 理事長

日本リハビリテーション医学会 理事長

京都府立医科大学 特任教授／名誉教授

略歴

1978年	京都府立医科大学医学部医学科卒業
1983年	京都府立医科大学大学院医学研究科(専攻 整形外科)修了
1983年	米国ハーバード大学留学(Massachusetts General Hospital)
1993年	仏国サンテチエンヌ大学留学(日仏整形外科学会交換留学)
2002年	京都府立医科大学整形外科学教室 教授
2013年	京都府社会福祉事業団心身障害者福祉センター 所長(兼務)
2014年	京都府立医科大学リハビリテーション医学教室 教授(兼任)
2015年	京都府立医科大学 副学長(兼任)
2016年	京都府立医科大学大学院医学研究科スポーツ・障がい者スポーツ医学 責任教授(兼務) 公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 理事長
2017年	京都府リハビリテーション教育センター長(兼務)
2018年	和歌山県立医科大学 特命教授 一般社団法人 日本リハビリテーション医学教育推進機構 理事長・機構長
2019年	京都府立医科大学 退官 一般財団法人 京都地域医療学際研究所 所長
2020年	学校法人 京都中央看護保健大学校 学校長

所属学会役員

日本股関節学会 監事、日本医学会 評議員、
日本軟骨代謝学会 理事、運動器の健康・日本協会理事、その他

厚生労働省

厚生労働省特定疾患調査研究班（特発性大腿骨頭壊死症）研究協力者・研究分担者 1988年4月～
厚生労働省 要介護者等に対するリハビリテーション提供体制の指標開発研究事業に対する検討委員会 2019年11月～
内閣官房健康・医療戦略推進本部 第4回アジアに紹介すべき日本的介護の整理 WG 2019年12月～

専門領域

関節外科学、リハビリテーション医学、スポーツ医学、骨壊死症(骨内循環)、軟骨代謝、骨代謝(骨粗鬆症)

EL1

リハビリテーション医学・医療の教育について

日本リハビリテーション医学会 理事長／日本リハビリテーション医学教育推進機構 理事長
久保 俊一

超高齢社会となった日本において、リハビリテーション医学・医療の対象はほぼ全診療科に関する疾患、障害、病態を扱う領域になっているといっても過言ではない。

このような背景の元、日本リハビリテーション医学会では2017年に、リハビリテーション医学を「活動を育む医学」と再定義している。すなわち、疾病・外傷で低下した身体・精神機能を回復させ、障害を克服するという従来の解釈のうえに立って、ヒトの営みの基本である「活動」に着目し、その賦活化を図る過程がリハビリテーション医学であるとしている。日常での「活動」としてあげられる、起き上がる、座る、立つ、歩く、手を使う、見る、聞く、話す、考える、衣服を着る、食事をする、排泄する、寝る、などが組み合わさって有機的に行われることにより、家庭での「活動」、学校・職場・スポーツなどにおける社会での「活動」につながっていく。社会での「活動」はICFの「参加」にあたる。

リハビリテーション医療では、医師をはじめとする多くの専門の職種がリハビリテーション医療チームを形成し実践している。また、近年、急性期、回復期、生活期といったphaseでもリハビリテーション医学・医療の充実が求められている。さらに、地域包括ケアシステムで重要な役割を期待されているのもリハビリテーション医療である。

リハビリテーション医学・医療の質を担保するために専門の職種も含めた教育systemの整備は大きな課題となっている。慢性期医療においても、医療チームの構成員が急性期から生活期までのリハビリテーション医学・医療の概要を総合的に学んでおくことは重要な事柄である。日本リハビリテーション医学会や日本慢性期医療協会など関連25団体から組織される日本リハビリテーション医学教育推進機構では、各団体の連携を図りながら教材作成を精力的に進めている。総合的テキストとして「総合力がつくりハビリテーション医学・医療テキスト」「リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版」が、フェーズ別テキストとして「急性期のリハビリテーション医学・医療テキスト」「回復期のリハビリテーション医学・医療テキスト」「生活期のリハビリテーション医学・医療テキスト」が、疾患別テキストとして「脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト」「内部障害のリハビリテーション医学・医療テキスト」「運動器疾患・外傷のリハビリテーション医学・医療テキスト」「耳鼻咽喉科頭頸部外科領域のリハビリテーション医学・医療テキスト」が、テーマ別テキストとして「リハビリテーション医学・医療における栄養管理テキスト」「社会活動支援のためのリハビリテーション医学・医療テキスト」が発刊されている。また、オンライン研修会の充実も図られている。リハビリテーション医学・医療に関係する多くの人に利用してもらえるような仕組み作りが進んでいる。